

令和5年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策No	12	政策名	港区の特性を生かした個性ある商業集積の形成を支援する
所管部	産業・地域振興支援部		関係部

2 政策のめざす方向性

地域コミュニティの拠点である商店街が、将来にわたり地域のにぎわいを創出し、人々の生活を支える商業活動を継続できるよう、日々進化する先端技術を活用しながら、外部環境の変化に即した支援を行います。商店街の活性化を担う人材の育成や商店会への加入を促進し、商店会の組織力の向上を図ります。新しい生活様式にも対応しながら、地域の実情にあったきめ細かな商品やサービスを提供する、個性豊かで魅力ある店舗づくりを推進し、港区の特性を生かした個性ある商業集積の形成を支援します。

SDGsとの関係					
----------	--	--	--	--	--

3 成果指標【政策について満足している区民の割合】

指標の推移		目標値		達成度 ※	※評価方法 A：中間目標値に到達しており、計画目標を達成できる可能性がある。 B：中間目標値に到達していないが、計画目標を達成できる可能性がある。 C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和元年度）も下回っているが、計画目標を達成できる可能性がある。 D：中間目標値に到達しているが、計画目標を達成できる可能性がない。 E：中間目標値を下回っており、計画目標を達成できる可能性がない。
現状値	実績	中間目標値	計画目標値		
令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和8年度末		
23.0%	31.9%	23.8%	24.9%	A	

これまでの取組と成果
新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、商店街にとって厳しい状況が続きましたが、プレミアム商品券の電子化や発行額の大幅増額を支援するとともに、二次元コード決済を活用した消費喚起等に積極的に取り組み、コロナ禍での事業継続を下支えしてきました。

課題と今後の方向性
※未達成の場合は原因分析を含む
・ 厳しい状況が続く商店街を支援するため、プレミアム商品券の大型発行支援を継続し、消費を喚起します。
・ 国や東京都が新たな補助制度を示した場合には、積極的に活用し、消費喚起策に取り組みます。

4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）

No	施策名	成果指標	施策評価
①	魅力あふれる商店街の支援	自宅周辺商店街のにぎわいの状況（「にぎわっている」「まあにぎわっている」と回答した人の割合）	C
②	商店会の組織力の向上	港区商店街連合会に加入している商店会数 商店会に加入している店舗数	B
③	将来にわたり持続可能な店舗づくり	直近の売上高が3年前と比較して増加した店舗等の割合	B
④			
⑤			
⑥			

5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額	674,079	752,458	616,317
流用・補正	444,265	1,769,608	-
決算額	904,863	2,373,641	-
執行率	69.36%	87.86%	-

6 政策を取り巻く社会経済情勢等

<p>計画期間中の社会経済状況等の変化</p> <p>・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など</p>	<p>徐々に回復基調にあります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う外出自粛やテレワークの浸透、旅行客の減少などにより、コロナ禍前に比べ、人出は戻っていません（令和5年5月人出（対令和2年2月比）品川▲47%、六本木▲21% 東京都ホームページより）。</p>
--	--

<p>区民ニーズ等</p> <p>・区民意識調査 ・区民から寄せられた意見など</p>	<p>第4次港区産業振興プラン後期計画策定に係る基礎調査では、3年後の売上見通しとして、増加予想の店舗等が約4割、飲食店では約5割を占めるなど、明るい兆しが見える一方、多くの店舗が、人材不足や従業員の高齢化等の課題を抱えています。</p>
---	---

7 所管課による評価【一次評価】

<p>政策の達成状況</p>	<p>コロナ禍では、営業時間短縮や外出自粛、テレワークやインターネットショッピングの浸透等により人出が減少した上、商店街イベントの中止・縮小もあり、商店街にとって厳しい状況が続いたものの、プレミアム商品券発行支援や二次元コードを活用した消費喚起事業に積極的に取り組んだ結果、中間目標値を上回る実績を上げることができました。</p>
----------------	---

<p>達成状況の要因</p> <p>・施策の有効性が高かった点 ・施策の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点など</p>	<p>プレミアム商品券の発行額の大幅増額や、商店街での小規模イベント実施を支援するとともに、二次元コード決済を活用した消費喚起等に積極的に取り組み、コロナ禍における商店街での需要創出、にぎわい維持を下支えすることができました。</p> <p>特に、在勤者を主な顧客層とする商店街では、なかなか客足が戻らない中、消費喚起事業の効果が非常に高かったことから、事業の継続を希望する意見が届いています。</p>
---	---

<p>課題と今後の方向性</p>	<p>第4次港区産業振興プラン後期計画策定に係る基礎調査では、約4割が「コロナ禍での買い物行動を継続する」と回答しており、引き続き、外出を控えてインターネットで買い物する層も一定程度生じることが想定されます。商店街での消費を喚起するため、商店街イベントやプレミアム商品券の大型発行を引き続き支援するとともに、国や東京都が新たな補助制度を示した場合には、積極的に活用し、消費喚起策に取り組めます。</p>
------------------	---

8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】

<p>評価※</p>	<p>B：政策目的をおおむね達成できる。</p>
------------	--------------------------




<p>政策の達成度</p>	<p>・プレミアム商品券の発行やイベントの支援など、商店街の事業継続やにぎわいの創出を下支えしたことは評価できます。</p> <p>・多くの店舗で、人材不足や従業員の高齢化の課題を抱えています。</p>
---------------	---

<p>今後の政策の方向性</p> <p>・重点的に取り組むべき施策など</p>	<p>・インターネットショッピングが普及していく中で、「区民の買い物は地元で」というような区内消費の意識啓発も重要です。</p> <p>・商店の人材不足や高齢化への対応について、新たな担い手をどう掘り起こしていくか、マッチングの検討が重要です。</p> <p>・商店街は全国的に共通の課題を持っており、その中で成功事例などを積極的に取り入れるような取組も必要です。</p> <p>・現行制度の活用だけではなく、必要な取組について区が国や東京都に積極的に要請していくことも重要です。</p>
---	--

※評価の目安

政策評価	施策評価 (最も低い施策の評価で判断)	政策の成果指標の達成度
A：政策目的を十分に達成できる。		A
B：政策目的をおおむね達成できる。		C以上
C：政策目的を達成するために改善が必要である。		上記以外

施策評価シート

政策No	12	政策名	港区の特性を生かした個性ある商業集積の形成を支援する		
施策No	1	施策名	魅力あふれる商店街の支援		
目標・期待する成果	地域資源を生かした魅力あふれる商店街の景観整備や、誰もが安心して利用できる商店街のにぎわいづくりを支援することで、区内外から商店街に多くの人々を呼び寄せ、商店街の振興と地域社会全体の活性化につなげます。				
SDGsのゴールとの関係	  				
施策担当課	産業振興課		関係課	観光政策担当	
担当者名	吉田	内線	3933		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
自宅周辺商店街のにぎわいの状況（「にぎわっている」「まあにぎわっている」と回答した人の割合）	43.5%	-	39.4%	-	45.0%	50.0%
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	-	新型コロナウイルス感染症の感染拡大、テレワークや通信販売等の新しい生活様式の浸透により、街中の人出は減少しており商店街は苦戦を強いられていますが、プレミアム商品券の発行支援や消費喚起事業の実施により、まちの賑わい創出に一定の成果を挙げることができました。		各店舗が、コロナ対策に取り組む経費を支援するとともに、商店街がウィズコロナ時代においても安全・安心な買い物や食事の場であることを広く周知することや、消費喚起に取り組めます。		
令和4年度	C	外出自粛やインターネットショッピングの拡大、テレワークの急速な普及など商店街にとって厳しい状況が続いていますが、各店舗のコロナ対策や新たな取組みへの支援、プレミアム商品券の発行支援やQRコード決済を用いたポイント還元事業など、消費喚起事業を強力に推し進め、消費を創出しましたが、依然支援が必要な状況です。		新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、戻ってくるのが想定される観光客の取り込み、大規模商店街イベント実施によるにぎわいの創出や消費喚起に引き続き取り組みます。		
令和5年度	C	新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴う人流の変化や商店街イベントの復活の好機を逃さず、商店街のにぎわいを取り戻せるよう消費喚起支援策等について積極的に取り組みます。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券の発行額の大幅増額を支援するとともに、QRコード決済を活用した消費喚起等に積極的に取組み、コロナ禍での事業継続を下支えしてきました。 ・新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、商店街にコロナ禍前のにぎわいは戻っていない状況です。 ・施策の評価は、アフターコロナによる人流の変化等を見込み、Cとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「自宅周辺商店街のにぎわいの状況」は、新型コロナウイルス感染症の影響が依然大きいことから、令和2年度の現状値を下回っています。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい状況が続く商店街を支援するために、プレミアム商品券の大型発行支援を継続し、消費を喚起します。 ・国や東京都が新たな補助制度を示した場合には、積極的に活用し、消費喚起策に取り組みます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。


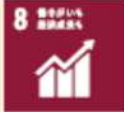


B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。

C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。

D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。

E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	12	政策名	港区の特性を生かした個性ある商業集積の形成を支援する		
施策No	2	施策名	商店会の組織力の向上		
目標・期待する成果	商店会の組織活動の運営などを支える人材の育成及び確保を通じ、担い手不足の課題解決を図ります。商店会加入店舗を対象とした補助制度の創出や商店会が実施するイベント等を広く周知し、商店会への加入促進を図ります。				
SDGsのゴールとの関係	   				
施策担当課	産業振興課			関係課	
担当者名	吉田	内線	3933		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
港区商店街連合会に加入している商店会数	55団体	57団体	57団体	57団体	57団体	58団体
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	特に在勤者に支えられた商店会は、コロナ禍という大変厳しい状況が続いていますが、港区商店街連合会加入のメリットを周知したことで、地域の店舗が生き残りのために結束し、新規商店会の発足につながりました。		商店会組織の充実のためには、地域に根差した商店街イベントの実施が欠かせません。ウィズコロナ時代にふさわしい商店街イベントを臨機応変に実施できるよう、補助事業の充実を図ってまいります。		
令和4年度	a	長引くコロナ禍の影響により、商店会にとって厳しい状況が続いていますが、年間20億円分のプレミアム付き区内共通商品券の発行支援や商店街イベント支援の充実など、港区商店街連合会への加入メリットを打ち出し、加入数を維持することができました。		人流の変化や担い手不足などにより、商店会は厳しい状況に置かれており、休止や合併を検討する声も届いていますが、港区商店街連合会とともに加入するメリットの訴求に取り組んでまいります。		
令和5年度	a	10億円規模でのプレミアム商品券の発行や商店街イベント等への積極的な支援を継続し、港区商店街連合会への加入メリット創出に取り組みます。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
商店会に加入している店舗数	2,805店	2,804店	2,790店	2,800店	3,050店	3,100店

	達成度	当該年度の取組と成果	課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)
令和3年度	b	新型コロナウイルス感染症の影響により、商店会にとって厳しい状況が続いていますが、商店会加盟店舗を対象とした補助事業の実施及び港区内共通商品券の事業充実により、コロナ禍でありながら、加入店舗数を増やすことができた商店会もあり、感謝の声が届いています。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大やテレワークをはじめとした新しい生活様式の浸透に伴い、各店舗にとって先行きが不透明な状況が続いています。まちの賑わいを創出するために、商店会加入店舗数を維持する施策に継続して取り組んでまいります。
令和4年度	c	長引くコロナ禍の影響により、街の人出が落ち込み、閉店する店舗もある中、年間20億円分のプレミアム商品券の発行に加え電子化を支援することで、商店会加入のメリットを創出した結果、加入店舗数は、ほぼ現状維持となりました。	令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類となり、人出が戻ることで、商店街のにぎわい復活が期待されています。今後のイベント再開等を好機と捉え、商店会加入を促進できるよう取り組んでまいります。
令和5年度	c	10億円規模でのプレミアム商品券発行や復活が期待される商店街イベントを積極的に支援することで、加入店舗を少しでも増やせるよう取り組みます。	

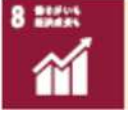

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券発行支援や商店会加盟店舗が利用できる補助制度の創設により、コロナ禍にも関わらず、港区商店街連合会に加盟している商店会数を増加させることができました。 ・施策の評価は、成果指標①及び②の達成度から判断し、Bとしました。
達成状況の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「港区商店街連合会に加入している商店会数」について、商店会主催イベントへの補助事業など区の支援施策をはじめ、商店会結成のメリットを丁寧に説明し、加入商店会を伸ばすことができました。 ・成果指標「商店会に加入している店舗数」について、プレミアム商品券発行支援や商店会加盟店舗が利用できる補助制度の創設などにより、コロナ禍でありながらほぼ現状維持となりました。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街イベントやプレミアム商品券発行の積極的な支援を継続し、商店会や各店舗にとってのメリットを打ち出し、加入を促進します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	12	政策名	港区の特性を生かした個性ある商業集積の形成を支援する		
施策No	3	施策名	将来にわたり持続可能な店舗づくり		
目標・期待する成果	区民生活に不可欠な商店街店舗の外部環境に即応する新たな販売方法の導入や、営業を持続していくための取組を支援します。魅力ある区内商店街店舗の情報を広く発信し、より多くの顧客を導き、消費行動につなげていきます。				
SDGsのゴールとの関係	 				
施策担当課	産業振興課			関係課	
担当者名	吉田	内線	3933		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
直近の売上高が3年前と比較して増加した店舗等の割合	13.9%	—	10.8%	—	15.0%	17.5%
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	—	各店舗は、新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛やテレワークの浸透等の影響による売上減少に直面しています。テイクアウト・通信販売等の実施、商品力強化、老朽化設備の更新等に対する補助を実施し、営業の持続化を支援していますが、コロナ前に比べ依然厳しい経営環境が続いています。		ウィズコロナ時代の安定した店舗経営に寄与するため、引き続きキャッシュレス化や通信販売、コロナ対策等の支援を実施するとともに、消費喚起に取り組みます。		
令和4年度	C	プレミアム商品券の年間20億円分の発行や消費喚起事業「みな得レシートキャンペーン」の支援、QRコード決済を活用したポイント還元事業等、強力に消費喚起事業を推し進めてきましたが、コロナ前との比較において、厳しい状況が続いています。		新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う人流の変化や消費マインドの回復に合わせた消費喚起に取り組みます。		
令和5年度	C	プレミアム商品券の発行支援など消費喚起を強力に推し進めるとともに、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、人出が街に戻ってくことで、各店舗の売上高増につなげます。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 — : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末

	達成度	当該年度の取組と成果	課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)
令和3年度			
令和4年度			
令和5年度			

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券発行や消費喚起事業「みな得レシートキャンペーン」の支援、QRコード決済を活用したポイント還元事業など消費喚起に積極的に取り組んできましたが、コロナ禍前との比較ということもあり、期待した数値には届きませんでした。 ・施策の評価は、今後の人流の変化等も見込み、Bとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「直近の売上高が3年前と比較して増加した店舗等の割合」について、消費喚起事業に積極的に取り組みましたが、コロナ禍前との比較において、期待した数値には届きませんでした。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、人流に変化が生じ、街に人が戻ってくるのを好機と捉え、積極的に消費喚起に取り組みます。 ・国や東京都が新たな補助制度を示した場合には、積極的に活用し、消費喚起に取り組みます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。